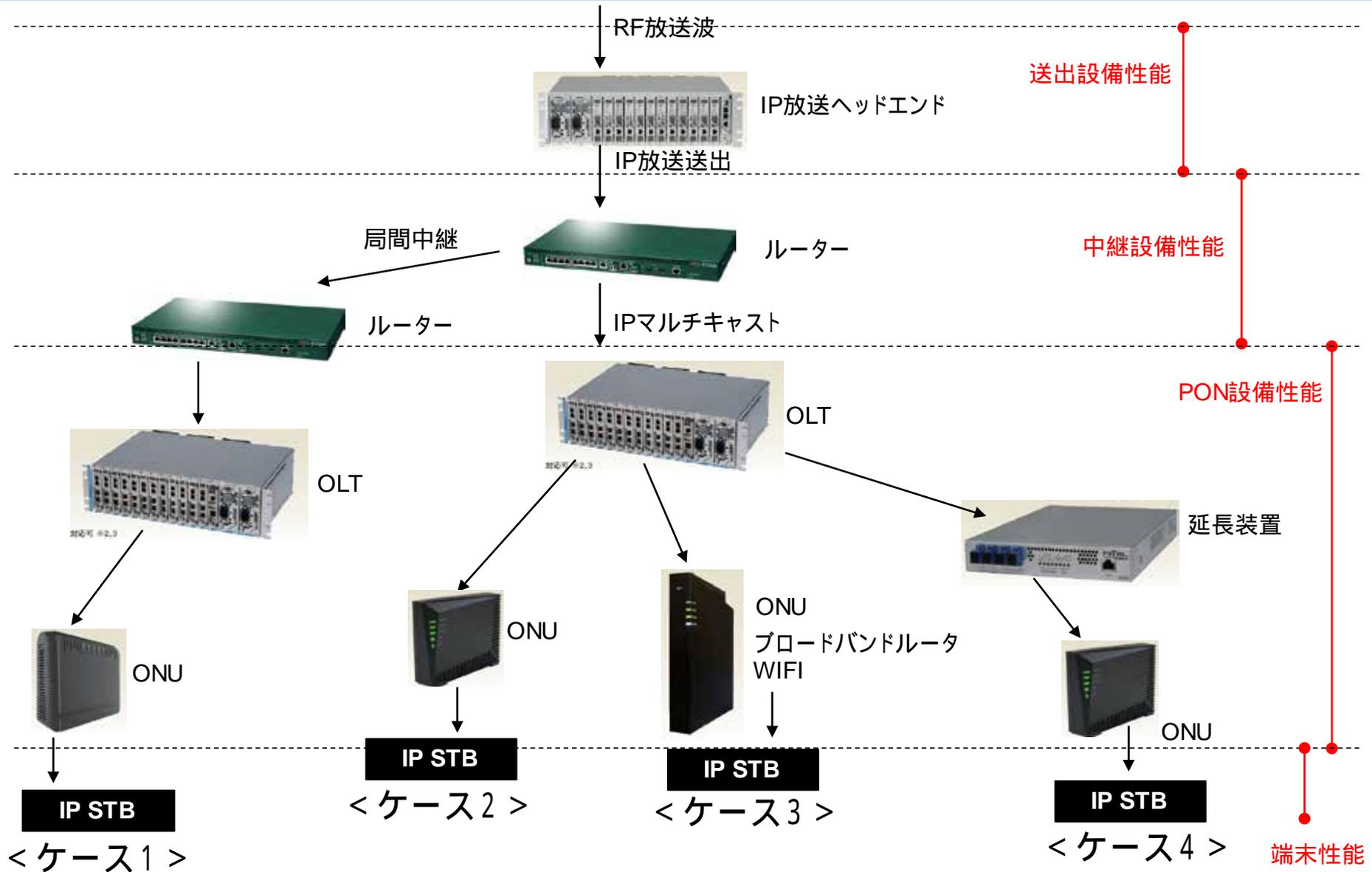


# IP放送作業班 IP放送性能規定に関する提案

古河電気工業株式会社

- ・ IP放送システムは急激に技術進歩が著しく品質・性能ともに向上
- ・ IP放送は伝送距離を選ばず、全世界に配信をできるポテンシャル
- ・ 地域の優良コンテンツを世界中に配信できるポテンシャル

# IP放送トポロジーのシナリオ



## IP放送伝送での品質評価項目

【品質評価項目1】 全パケット損失(システムパケット損失)の測定

送出設備の性能 + 中継設備の性能 + PON設備の性能 + 端末設備の性能

【品質評価項目2】 全ジッター量(システムジッター量)の測定

送出設備の性能 + 中継設備の性能 + PON設備の性能 + 端末設備の性能

【品質評価項目3】 全遅延時間量(システム遅延量)の測定

送出設備の性能 + 中継設備の性能 + PON設備の性能 + 端末設備の性能

## 品質評価規定の課題

圧縮技術、伝送技術の発達が顕著な技術領域であり技術進歩が顕著

システム性能を図る測定方法などが確立されていない。

伝送規格は国際標準化されており、伝送機器個別のチューニングが出来ずらい。

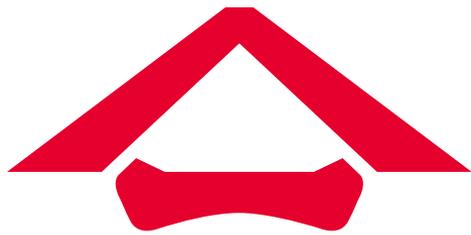
放送の公共的役割という観点から災害時における放送品質の確保をするための必要な優先制御について何等かの指針が必要と考えます。

全システム性能は、受信者端子において測定することで十分で、各設備ごとの規定は必要ないと考えます。

受信者宅内における技術的条件に関しては、現行制度と同様受信者端子が適切と思われるが、宅内におけるネットワークはさまざまであり、事業者が管理できる現実的な規定点が定義される必要があると考えます。

有線一般放送における重大事故報告、電気通信設備の状況報告などに関する事項については、現行のものを維持することが好ましいと考えます。

すでにある国際標準規格、民間規格に対して著しく相違が生じない技術基準であるべきであるとともに、日本規格の国際標準への提案を推進する必要があると考えます。



**FURUKAWA**  
**ELECTRIC GROUP**